



障がい者たちの活動拠点

札幌市中心部から約12km、道道西野福井真駒内線に接する面積約6.3haの森林が、私たちの活動地域です。ミズナラ・シラカンバ・イタヤカエデ・ハリギリなどの天然性林と、おおむね45年生のトドマツ・カラマツ人工林からなっています。明治44年(1911年)ごろ、このあたりを含む盤渓一帯で2度にわたる山林火災があったそうですが、その後に生まれた二次林で、かつては一部が薪炭林として利用されていました。「北海道フラワーソン2017」に参加して林内の草花を調査したところ、山野草38種を確認しました。またアカゲラなど鳥類8種、シカ・リス・ザリガニといった多様な生物が生息しています。

この森林の現在の所有者は、「社会福祉法人札幌この実会」(以下「この実会」)という知的障がい者の生活支援団体です。山科アキさんという元の山主さんが、北海道民生部(福祉行政)の元職員で、知的障がい者更生相談所に務められていたこともあり、退職後に「知的障がい者たちが自由に活動できる場を提供したい」と、平成元年にこの山を「この実会」に寄付されました。

「この実会」は当初、1ha程度を農地や採草地として使うほか、ヒツジやニワトリの飼育、またアスパラガス・シイタケの栽培などを行っていました。ところが今から15年ほど前、森にヒグマが出没し、飼っていたヒツジにまで被害が及んだことから、クマを誘因しかねない家畜飼育や栽培の活動ができなくなって、およそ10年にわたって放置されていました。何とか利用を再開できないかと考え、初めに目指した障がい者の機能回復訓練や、地域住民の健康保持を主体にした森林活用を検討することになりました。

公募ボランティアたちと協働

最初に取り組んだのは、森林境界沿いのササの刈り払いです。隣り合う林地からヒグマが侵入して

くるのを防ぐ狙いです。また作業路や散策路を建設し、無立木地では植樹を開始しました。これまでササを刈った面積は2.3ha、植栽実績はエゾヤマザクラ40本、イタヤカエデ20本、トドマツ30本、ミズナラ10本、ハンノキ10本です。

こうして森に入る準備ができたので、2期目から市民ボランティアを募り、その手を借りながら、クマ柵を設置したり、休憩小屋や四阿(あずまや)を建てたり、車椅子用の木道(98m)を整備したりしました。休憩小屋には「森の図書館」を併設しています。また、外来種のオオハンゴンソウやニセアカシアの駆除作業を行ないました。

さらに、森の中でシラカンバの樹皮や樹液を採取したり、イタヤカエデから採った樹液でメイプルシロップを作ったりしています。伐木は薪にしているほか、バイオトイレ用のチップ材や、林内路の維持補修資材、また野鳥の巣箱を組み立てる材料として利用しています。

ボランティアを公募している点は、私たちの活動の特徴の一つだと思います。新聞に募集広告を載せたり、森林作業に関心があるグループを紹介してもらっています。現在のボランティアは15人ほどで、月1回の例会に集まって作業しています。「この実会」の利用者や保護者のみなさんも作業に加わっています。平成30年度の入林者数は、会員が延べ114回、ボランティアのみなさんが240人でした。

ここは6.3haの小さな森です。今後は近隣の森林所有者とも連携しながら、森巡りのフットパス・コースを作るなどして、四季を通じて森林を活用できるようにしていけたらと考えています。



【札幌市】

盤渓癒しの里山づくり プロジェクト委員会

【報告者】



奈良賢さん